

Topics 福島は、原子力機構が行っている福島対応などの活動を紹介するものです。

川内村で開催された「第3回地下水サミット」に参加

—セシウム捕集材を充填したカートリッジを展示紹介

地下水や沢水を生活用水として利用している10市町村がつくる「安全・安心でおいしい地下水連絡協議会」は11月10日、川内村で「第3回地下水サミット」を開催し、原子力機構の福島環境安全センターの石田センター長がこの会合に出席しました。

このサミットは同協議会が、貴重な水資源を未来にわたって引き継いでいくことをめざして3年前から始めたものです。11月10日を「い〜井戸の日」と定めて毎年、この日に開いています。

第3回目となる今回は、「ふくしまの水30選」に選ばれた千翁川（せんとうがわ）を始めとする豊かな環境に恵まれた川内村で開催されました。川内村は昨年の福島第一発電所事故により、全村避難を余儀なくされ、昨年9月に緊急時避難準備区域が解除された後、今年1月に帰村宣言が発せられました。現在は除染や雇用の拡大等、復興へ向けて意欲的に取り組んでいて、3,000人の村民のうち約1,160名が帰村し、昨年延期となった今回のサミットの開催に至りました。

サミットには県内阿武隈山系に位置する6町村（川内村、葛尾村、小野町、古殿町、鮫川村、平田村）の首長さん方に加え、北海道東川町、愛媛県西条市等全国の10市町村が集結。このたびの事故によって放射性物質が飛散されたことに伴い、国などの関係機関と連携し、地下水の保全対策を進めていくなどの宣言を行いました。

今回のサミットを主催した安全・安心で美味しい地下水連絡協議会の会長でもある川内

村の遠藤雄幸村長（=写真左）は、豊かな環境の中で天然の地下水で生活をまかなっている地域への支援を呼びかけるとともに、環境の豊かさ、環境保全の大切さ、本当の豊かさを考える機会にしてもらえたらと語りました。



原子力機構は川内村において除染モデル実証事業を行うとともに、川内村民の内部被ばく検査等の協力を行っており、今回のサミットには協力団体として参加。低濃度で水に溶けている放射性セシウムを吸着・除去する捕集材を使った水道用カートリッジの展示・紹介を行いました(=写真右)。

この捕集材は原子力機構が倉敷繊維加工(株) (クラブウグループ) と共同で、電子線を照射して分子同士を化学的に結びつけやすくする電子線グラフト重合技術と呼ばれる方法を応用して開発したものです。

(参照：<http://www.jaea.go.jp/02/press2012/p12110701/index.html>)

展示コーナーには、安全からより安心した飲料水への活用が期待できるということで、多くの出席者の関心が集まりました。



地下水サミットに参加して

福島環境安全センター長 石田順一郎

川内村では井戸水などのモニタリングを継続して行っており、いずれも検出限界以下の結果を得ています。安全・安心でおいしい地下水を守り、後世に引き継いでいくことは大切であり、今後も飲料水として大切に利用されていくと思います。サミットでは多くの出席者の方々に展示をご覧いただき、ご質問・ご意見をいただいたことに感謝するとともに、それを踏まえて、今回紹介した研究成果が地元の皆様の一層の安心につながるようお役に立てればと考えています。